



(第35号)

発行所 〒260-0853 千葉市中央区葛城1-5-2
県立千葉高等学校同窓会
印刷所 千葉市中央区都町1-13-16
TEL. 043-233-9671
有限会社 プリントピア

二十一世紀に向けて



同窓会会長 霜 礼次郎

昨年は、本当に、いろいろな事が起こった。自然現象によって、変わっていくのか、それとも、人間が環境を変化させるのか。その両方だろう。

千葉高一二五年の、長い歴史の中に、再び、新しい年がやって来た。この新しい世紀を、担う後輩達が、毎年やって来るが、彼等も又、その時、その時を、一所懸命に生きていくだろう。今までの、先輩達がして来たように。

戦後六十年、長い、長い、独自の歴史を、造って来た、日本民族にとって、変化の波

が、押しよせて来た。

いつも、外界に注目して来た民族にとって、その変化に、素早く感知して、身を処するだろう。

天然、自然と共に、生きて来た、我々日本民族にとって、天然自然を征服し、物質文明を、駆使する欧米人の、考え方、生き方に、ついて行けない人達も多からう。

こうした中で、古き良き時代の、日本が失われたと、嘆く。

反面、我が活躍の時が出来たと世の中に躍り出て、自己PRをする人達も出てくる。

しばらくして、異なった文

化が、交わり合って、新しい文化が、出来あがってゆく。

しかし、長い間に形成された日本民族のDNAは、今までの以上に、世界に向けて、活躍をするだろう。

新しい文化が、移入されればされるほど、そのエネルギーは、高まる可能性がある。アルファベットを使用しな

本校の高校再編と記念事業

—その報告とお礼—



校長 大野 敬三

前回の会報で本校の学校再編について記しましたが、まずこのことについて、その後経過等、報告します。

この準備については、県教育庁県立学校改革推進課が中心となって進めています。が、昨年度は、それぞれ三回の準備会を開き、全体的な目指す方向や考え方、問題点につい

い文字、文化圏から、IT革命を、世界に発信する日本人だ。

私達は、後輩達のエネルギーを信じて、大いに期待しよう。

オンリーワン
ナンバーワン
たったひとつの心で
世界一

て意見を出し合ったようです。

今年度に入り、全日制（併設中学校の設置）については三専門部会を、定時制（三部制定時制の設置）については五専門部会を準備委員会の内に設け、具体的な案作りが始まりました。各部会で精力的に検討が進められているところですが、具体案について、

十二月の段階ではまだまとまっ
てはいないようです。再編の実
施まで定時制はあと一年、全日
制はあと二年と、いよいよ待っ
たなしの状況になってきました。

本校全日制の中高一貫教育校
化は、千葉県のトップ校に中学
校を併設するということが、他
県に類を見ません。県内はもち
ろん全国的にも注目が集まっ
ています。千葉県としての教育へ
の取り組みが大いに問われるこ
ととなります。そこで本校とし
ては次の二点に留意していき
たいと思っています。

一 基礎基本をしっかりと身に
つけさせ、特に中学期に大切
な、物事をじっくりと考え、
調べ、探究し、意見をまとめ、
議論・発表のできる能力を養
うこと

二 基本的な生活習慣を徹底し
て身につけさせ、規則正しい
生活の基盤づくりをすること
です。中学期にこの点をしっか
り行うことで、高校期に真の
自主自律を高める本校の良き伝

統が引き継がれ、明日の千葉県
を担い国際社会で活躍できる千
葉を代表する人材が育てられる
ものと考えます。

開設に向けて、教育課程、施
設・教育環境、教員、入学者の
選考等々、現在検討が行われて
いますが、この点を見据えて進
めていこうと考えています。

定時制については、来年度開
校となる松戸南高校に次ぐ二校
目ということですが、その点から
全体的なワク組みはほぼできあ
がっているといえます。

本校独自の課題としては
一 本校定時制の生徒が三年
生・四年生で生浜高校転入す
るということ

二 現生浜高校の学校環境や通
学路などを整備すること
です。

この点についても全日制の場
合同様、きちんと位置づけて
いきたいと思えます。

次に二年間に亘る事業となっ
た百二十五周年事業ですが、五
月にすべての諸手続きを終え完
了となりました。県財政が大変

厳しく、施設設備の整備や各種
事業の推進が思うようにならな
い中、本校教育環境の整備や同
窓の皆様と現役の生徒との交流
事業など誠に多くの事業を進め
ていただきました。厚くお礼を
申し上げます。中でも現役生徒
と皆様との交流事業は直接生徒
の教育に役立つもので、毎年継
続的に実施することにより、よ
り大きな成果を得ることのでき
るものと考えています。内容は、
本校一・二年生を対象にした皆

様の講演や業種別での身近な講
話、また大学生活や入試の心構
えなど進路選択に関わる話で、
一年から二年にかけての二年間
三回に亘るものです。今後とも
是非、皆様のご支援のもと、続
けさせていただければと思っ
ています。

以上二点について報告やお
礼、お願いをいたしました。職
員一同、本校発展のため努力し
てまいります。今後ともよろし
くお願い申し上げます。

美術館より

名誉館長 伊藤敏隆

(昭和二十二年卒)

昨年出来上がりました『美術
館収蔵作品録』は、ひとえに同
窓の皆様のお蔭と感謝に堪えま
せん。なにぶん未熟者の私の仕
事ですので間違いも出て、各位
から温かなご指摘をいただきま
した。判りました分については、
今回の美術館報二十二号に訂正

を掲載いたしましたのでお許し
下さい。

また、この出版を機に、新た
な作品が館へ寄贈され、反響の
大きさに驚くともにもあらため
て同窓の熱意に感激しておりま
す。その寄贈作品の写真も紹介
しておりますので、ご覧いただ
けたらと存じます。

その上、この収蔵作品録のた
めに多くの方々よりご支援を賜
りました。館で積み立ててきた
全財産を今回の出版で使い切っ
た現在ですので、ありがたく今

後の運営に役立てたいと思っております。感謝の意を込めて、館報紙上にそのご芳名を發表させていただきます。

今後とも本校美術館へのご支援をよろしくお願いいたしながら、御礼に代えさせていただきます。

学年短信

●昭和八年卒

安田 衛

昭和八年卒の昭八会は本年よりは大木亮喜君が幹事を務めることとなり、同君主催で十一月一日開催される予定であったが安田の妻が十月十七日急逝し同君が欠席することとなった関係もあり、本年は取り止めと決定した。

明年出席を予想されるメンバーは、遠藤健郎、大木亮喜、加地禮太、安田衛、山口董平、吉野平八郎の六名である。

●昭和十一年卒

佐瀬喜一

昭和十一年三月、一七四名の卒業生の集い「土葉会」は、昭和二十二年第一回を母校の旧図書館で開催したのであるが、その時から連続して会長をつとめた長谷川泉君の逝去を御子息、洋君の連絡で知った。十二月も終わろうとする頃である。心から冥福を祈る。さて「土葉会」は、一〇二年に一回づつ開催、三十六回を数えるが、数年前より、出席者がとみに減少、やむなく閉幕したのである。そして生き残った同志で連絡をとり古い旧交を暖めている次第。幹事は、新藤栄一、向井十郎の両君と筆者。因みに筆者は、小学校のクラス会の幹事も長くつとめたが、やはり八十才頃から、出席者が漸減して閉幕した。

●昭和十二年卒

古川 芳

昭和十二年卒業生二六七名、

その多くの者が戦地へ赴き、中にはシベリア収容所へ抑留されたり、戦死された者十余名、そして終戦、復員。日本が順調に回復してきた昭和二十五年頃から十二年卒の十二会も始まってきたと記憶して居ります。

当時は恩師の安田、早崎、矢沢、加藤の先生方にも来賓として出席していただきました。特に安田先生には、四年生と五年生の時に西洋史を教わりました。昭和三十六年、後の千葉高の校長を最後に定年退職されました。そして長いヨーロッパ旅行にかけられ、帰国後、先生のヨーロッパ視察報告会を中心にして、十二会を並木にて開催致しました。この時は、先生が実際に見てこられたヨーロッパの話をお聞きしました。

昭和四十七年安田先生は逝去され、葬儀は、教育会館にて盛大に取り行われました。我々同級生も二〇名集まりました。葬儀終了後、別の場所に移り、ここで十二会を開催し、先生を忍ぶ会となり思い出を語り合いました。

会員は八十六歳の高齢のため

少なくなり、平成十五年十月に京成ホテルに於いて開催、出席者十二名でした。会の運営に協力していただいた香川君、戸村君が亡くなり、私が未だ回復悪く、平成十六、十七年と、休んでしまいました。十八年は実施したいと考えて居ります。

●昭和十三年卒

鈴木尚純

いざや会の総会は平成十七年五月十九日、船橋市の稲荷屋にて十二時三十分より開催した。出席者は十名、内二名は歩行困難で、家族による車の送迎で出席された。

話題は相変わらず中学時代の思い出、各自の近況に終始したが、最近十五才位の少年の殺人などの重犯罪が頻発している。我々の中学三年の頃、諸先生が必要以上にきびしく我々に対処されたと思っていた。今考えると、その年頃に道を踏み外さない様にとの、我々に対する配慮と思われる。

当時の教育方針で、「一事實行」という言葉が、私にはしみついているが他の諸兄は、これには案外無関心であった。

●昭和十五年卒(葛城一五会)

古川清房

十月三十日(日)正午より本年のクラス会を西千葉みどり一階レストランを借り切り開催した。恒例により会は逝去者に対する黙祷にはじまり、高校美術館の伊藤敏隆先生のお骨折りにより完成した収蔵目録を出席者全員に配布したので、話題はこの二つに集中した。また、このクラス会を年に一回は大変だろうが続けて欲しいという希望が数人から寄せられた。それに対しては「我々の年代位、変化に富んだ貴重な人生を送ったものはないのだから、何か記録に残すことを考えたい」と返事した。

(逝去者)

- 大野 繁 (平16・5・19)
- 黒川 博 (平16・12・10)
- 遠山春海 (平17・4・28)
- 森川 修 (平17・9・20)

●昭和十七年卒

篠崎兵衛

今年の定例会は、十一月二十七日、千葉駅ビルで開催。出席は二十三名。十年程前は四十名を越えたが年々減るのが辛い。八十才をこえるのと之が当然か。

乾盃の後、全員が数分ずつ近況や体験等を披露したが、元氣な話の多い中で、渡部義一君の乗艦が艦載機の攻撃を受けた時に負った重傷の後遺症で未だに苦勞している、という話に皆驚き、かつ同情したが、殆ど全員が昔体験した軍隊生活や戦闘をホロ苦く思い出して話題が尽きなかった。その昔、戦死を覚悟した我々が終戦で辛くも命を保ち、平均寿命をこえて無事平和に生きて来られた事を有難く思う。会員一同いっそう自重自愛して、体力氣力を維持増進し、来年一人でも多く出席できるように期待して拙稿を閉じる。



●昭和二十年五卒

平野久夫

卒業「還暦」の会

われわれの会は「新葉会」と名付け、二、三年に一度、ホテルなどを会場に集まって居る。

平成十五年十月には、京成ホテルで「喜寿」の会を開いたが、今年は、千葉中を卒業して丁度六十年いわゆる「還暦」を迎えるので、それらしい「還暦」の会をやるうということになり、十月十三日、今はすっかり昔の面影もなくなった蓮池に、孤塁を守るかに残る、料亭「春の家」を会場に、四十名が集まった。久しぶりのお座敷で、懐かしい仲間と杯をあげ、懐旧談に花が咲き、秋の一夜、時の経つのを忘れた。

年齢のせいか体調を崩し、出席できない人の数も、年々増えてはきたが、集まったメンバーは、まだまだ元気で、次は二年後に「傘寿」の会を盛大にやろうと盛り上がった。

●昭和二十一年四卒、二十二年五卒

齋藤喜久三

わが 記念同期会

齋藤喜久三

第二次大戦の翌年昭和十七年に入学した文字通り丸坊主の「戦争っ子」の我々も戦後六十年を経て卒業六十周年を迎える。

当時戦時特令で四卒にされ、終戦により翌年は五卒に復活とめまぐるしい変遷の中だった二十一、二十二年の卒業生も今年目度く「岳寿」を鬼籍に入つた亡き友共揃つて一堂に会して長寿を喜びあった。会場は西千葉「みどり寿し」と岳寿にふさわしく午后三時よりウオーキングで元氣印の安西先生、若さの象徴兄貴先生こと早川先生をお迎えして開会。いつも乍ら両先生をハッピーで岳寿老人？達も喝を入れられ全員昔の戦争っ子の悪戯鬼に戻り大賑わい、正直今回はこの機会に今後の同期会をどうするか。アンケートでは最



後の一人迄開会と全員大変な張り切り様。当日御園宏君は娘さん参加で一票を投じる熱意をアピール。今回の驚きは石毛昌夫君の宝物、予科練入隊の際、皆の寄せ書きに当時を偲び、何はともあれ皆の長寿を改めて約し、例年通り略式校旗を振りかざし声高らかに校歌應援歌の合唱で閉幕。

平成十八年六月（昭和八十一年）は卒業六十周年記念同期会として又皆で大はしゃぎするのが待遠しい。

●昭和二十四年卒
(葛城芙美葉会)

安田敬一

平成十七年四月二十九日、よく晴れたみどりの日、葛城芙美葉会は、プラザ菜の花で盛大に開催されました。

千葉中二十三年組、千葉高二十四年組共に相揃い六十五名。母校より大野校長先生を迎え、恩師安西、早川、篠崎三先生とともに和やかな楽しい同期会となりました。

池田博君の司会で、この一年で亡くなった七名の同志に心からの黙祷を捧げ、故人を偲び、大野校長から母校の力強い発展の様子を伺い、若々しくお元気な安西、早川、篠崎諸先生からなつかしいお言葉を拝聴し、会は進行。大いに飲み、歓談、時を忘れ、古き良き時代を思い出し、未来を語りました。故吉野晋君夫人による名酒腰古井の差し入れも嬉しいことでした。恒例の校歌、凱旋歌、戦歌、今井喜久男君のリードで意気壯ん

に会をしめ、母校の弥栄を祈念しつつ閉会。今年も渡部正男君をはじめ接待、高澤、越川、植草、関根各幹事の熱心な努力で格調高い同窓会となり、代表幹事として感謝でいっぱいでした。

来年は、平成十八年四月二十日(土)に同じ菜の花プラザで開催と決定。今から沢山の同期諸兄の御来会をお待ちします。

●昭和二十五年卒

矢島 肇

私達の同期会名簿には(昭和十九年入学)二十五年までの間の在校生)と但し書きがなされている。一つには当時は旧制中学でも卒業出来た事、もう一年在学し新制高校でも良かったからである。その他として転校して卒業はしなかった友人、一時でも席を同じくした仲間を入れているからである。

4年毎オリピック年に同期会を行っているので、その中間年は友人の近況報告をし合う程

度の交わりになる。最近は頼に訃報や闘病生活のニュースが多い。年齢からして自然なのかも知れない、が時として叙勲・表彰等の報らせも伝わって来る。何れにせよ他人事とは思えず一喜一憂している昨今である。

●昭和二十七年卒(二七会)

中村作二

私達の大半は終戦翌年の二十一年四月に千葉県立千葉中学校へ入学しましたが、結局旧制中学校最後の生徒となりました。その時は一クラス約五〇名で一組から五組まで約二五〇名でした。

その後外地から引き揚げて来た人達の編入で一クラスが六〇名位にまでふえていました。

中学三年で卒業、新制高校へ入学となった時に、東京の高校へ変わって行った者が結構いましたが、新たに約一五〇名の合格者が入って来て八クラス約四〇〇名という編成になりました。



福の会 信州上山田温泉一泊旅行

中学から入った者は高校一年までの四年間、最下級生を務めたことになりませぬ。

今年には旧制中学に入学してから六〇周年になりますので、また皆で四月頃に集りたいと思っています。

●昭和二十九年卒

山口和治

福の会のご報告

老いて？ますます盛んな二十年卒も今年には古希を迎えました。植草君の発案で「古来希ではありません」を合言葉に今年も例年のようにいろいろな行事を行いました。

例によって「福の会総会」、今年には六月十八日千葉の京成ホテルミラマーレで開催、例年並みでしょうか、六十五名が集まりました。

九月四日から五日にかけて信州上山田温泉に一泊旅行。千葉からスタートしたバスは東京と前橋で同期生を拾って総勢十六名、天候の具合もあって小諸城

には上れませんでした。善光寺に参詣して神のご加護は確実？

十月二十日の東京葛城会には例によって二十八名が大量参加、ここでも二十九年卒は健在でありました。

この原稿を書いている時点ではまだ開催されていませんが、十二月二十三日には東京で三十五名が参加して忘年会を盛大にやる予定になっています。こうして、古希の年は静かに暮れていきます。

●昭和三十六年卒

田那村宏

私達の生れは昭和十七、十八年(戦時中)。平成も十八年(平和時)となり年代を感じる頃となりました。還暦の学年には、在校生に母校のパワーを見せて上げてください。昨年の八月幹事会を開催し、同期会総会を六月か七月に予定いたしましたので、多くの参加をお願いします。六十五歳の頃には、思い出の

旅行をしたいと思ひも多いようですので、皆様企画に参加してください。

昨年には二回程三十六ゴルフ大会も行われ、各六組で交流をしています。また昨年十一月、八日市場市の

守正英氏が地域医療に貢献されたことにより、県知事表彰を受けられましたので報告いたします。お祝い申し上げます。校歌にある「世界平和」を祈ります。

●昭和三十七年卒

駒井隆子
朝生邦夫

◎母校には、教育をめぐる悪しき時流に流されないので、千葉高の自由で平和な世界人としての「普通教育」を目指す校是を



守って頂きたいと心から思います。

◎ところで、今年も三七会の活動は、多方面に活発に展開されました。

「三七で歩く会」は、北ア後立山縦走(白馬・清水・唐松・五竜・鹿島槍・爺ヶ岳)、武尊・谷川岳登山などをはじめ、ほぼ

毎月一回の山歩きを楽しんでいます。

「三七ゴルフ会」は春と秋のコンペ中心に多数の参加を得ています。「三七旅行の会」は、夏に熊野古道へ三泊四日の「熟年修学旅行」に行きました。

この他、冬には「三七スキークラブ合宿」を、夏には「三七海の会」を開催して、旧交を温め懇親を深めています。

サークル活動では「三七卓球の会」と「三七囲碁の会」とが、月に一〜二回コミュニティセンターや会員宅で体を動かし、頭を鍛えています。「三七釣友会」は海釣りを楽しみ、「三七ヨットの会」「三七カヌーの会」は、航行を楽しみました。「三七映画を観る会」は、名画を何回か鑑賞し、懇話しました。二〇〇五年忘年会は六十数名の参加で今年の活動のまとめをしました。二月には、「三七会還暦記念ニュージールランド旅行」を企画しています。

写真・夏の旅行「熊野古道」

●昭和四十四年卒

森 茂

『第三回同期会(五十五歳)』

【報告】 平成十七年九月三日。幕張プリンスで第三回同期会を開催。同期四五五名のうち一〇五名出席(前二回よりも一寸少なめ)。和田正武、齋藤瑛、池城安俊、塚本庸の四先生が御来臨。料理も、プリンスが「地産地消」にこだわり、特に上総牛のローストビーフは絶品でした(懇談に熱中して賞味できなかった参加者もいたようです)。

【感想】 欠席の返信にも「逝去」の文字が幾通ありました。同期会は亡くなられた恩師・同期生の御冥福を祈ることから始められました。「もう二度と会うことができないかもしれない。」という思いを胸にコミュニケーションケートする時、人の声は温かく和やかな響きを帯びてくるように感じます。

『二期一会』 千利休
この言葉が、一層心に沁みる五十五歳の同期会でした。

※第四回同期会は、二〇一一



年二月です。私達も何と！六〇歳（還暦）で、同窓会総会の当番学年となります。（2005・11・6記）

●昭和四十八年卒

始平堂 玄昌

私達「千葉高よんぱち会」は、二〇〇五年六月十一日（土）、サンガーデン千葉にて、同期会を開催しました。五〇歳の年にぜひ集まりたいとの要望を受けての会でもあり、一五〇名を越える多くの仲間が集いました。

会は冒頭、逝去者に黙祷を捧げ、遠方からの参加者二名による乾杯に引き続き歓談となり、A～H組の八クラスのテーブル分けも意味ない騒然たる歓喜の状態に突入しました。

いつもの事とは言え、五〇歳を超えての余りあるパワーは千葉高健児の面目躍如と言ったところ。

最後に、無理やり全員の集合写真を撮り一〇〇名越えの大二次会に繰り出し、朝まで大いに

楽しみました。

●昭和五十年卒

園部 創

先の第四十四回総選挙では、千葉一区で再び立ち上がった地元出身の剣道部の大先輩、白井日出男先生の事務所にボランティアとして参加。見事復活当選を果たされた時は本当に感動的で、まさに政治家一家白井ブランドの復活だった。

SI（スクールアイデンティティ）が注目されて久しいが、千葉高は中高一貫教育論ばかりが先行して、本来の千葉高ブランドのあるべき姿が見落とされているように思えてならない。百二十七年かかって創り上げられた千葉高ブランドは実に奥深い。それでいながら進化している。改めて千葉高のブランドについて皆で考えてもらえると嬉しい。

我が学年は二年後の秋に同窓会を予定している。その時は皆思い思いの千葉高ブランドを身につけて集まり、語り合っているに違いない。

●昭和六十一年卒

増田 淳

ロンドンにはサヴォイホテルのバー。カウンタに座り、スタンダードカクテルのギムレットを注文。シェイカーの心地良い響きとジャズピアノの音色が交錯し、しばしの時を忘れさせる。そこへ現れたもうひとりの日本人。私の隣の席で、何やらカウ

ンター越しのバーマンに流暢な英語で話しかけている。こちらを振り向いた次の瞬間、時計の針は二〇年前を指し示した。「やあ、しばらく。」「君も海外赴任組か。」「〇〇銀行のロンドン支店なんだ。」「英語の成績が悪かった君がなぜ？」

卒業以来、千葉では会ったことのない同級生に外国のホテルのバーで再会する。一方の私は、国内永久残留組。地元市役所で、同級生の活躍と世界の平和を祈りながら年を送る。

支部だより

☆船橋葛城会

会長 吉岡賢一
(昭和三十五年卒)

マンネリ化と年齢構成の高齢化ではないかと思えます。

同窓という共通の条件を持つ者が集まって懇談する。このシンプルな目的に対して、そうそう目新しい機軸が毎度有るわけでもありません。しかし、だからとて何もしない訳にもいかず、毎回気苦労の多いところではあります。そこで申しますか、我が会

同窓会は様々な形であちこちで開催されていますが、主催者側として頭の痛いことは、その

では毎年手を変え品を変え、かつ余りお金を掛けずと難条件を屈服？しながらアトラクションを行っております。同窓生による出し物が多いのは当然として、時には外部からも招聘しております。

この、同窓会におけるイベントとしてアトラクションを始めたのは船橋葛城会が先駆なのだ、とは先輩方の言葉です。だとすれば益々継続せねばならない、と些かの責任を感じている次第です。

集まる人々の高齢化は、社会の高齢化と相まってこれ又頭の痛い問題です。継続させるためには若い世代に参加してもらわねばならない。しかし若い内は同窓会に余り興味を示さない。己を振り返ってみれば良く理解できる事であり、人皆同様と思わねばなりません。

若手の世話人の熱心な人達により、積極的な参加勧誘活動をお願いしているのが実情で、これも決め手はありません。基本的には同窓会とは自主参加であ

り、お願いすべきものではないはずですが、存在を知ってもらわねば興味すら持つて頂けないのは当然のことです。

さて、そうこうしているうちに今回の準備を始めねばならない時期になりました。頭を悩ませつつも楽しくやりたいものと思っております。

☆成田葛城会

支部長 真鍋 溥

(昭和二十九年卒)

平成十七年度成田葛城会総会は、十月第一土曜日に成田山新勝寺横の米屋観光センターにて開催されました。本会は、第三回と歴史が浅く、未だ名簿漏れもあり当日に電話をし出席して頂いた方も居ました。

今回は、やや出席者が少なかったのですが、会員一人一人の生い立ちなど詳しい自己紹介があり楽しい会でした。成田市は平成十八年四月には、大栄町・下総町との合併があり、会員名

簿の再追加編成をしなくてはなりません。当地区は、成田山新勝寺と国際空港があり古くかつ新しい町ですので、人の出入りの多い所です。

大栄町・下総町の千葉高卒業生や成田での会員漏れ等、お気付きの点が御座居ましたら、御一報頂ければ幸いです。

連絡先

成田市橋賀台一―十五―四

真鍋 溥

TEL 0476 (27) 3535

FAX 0476 (28) 6477

☆佐倉葛城会

花村満博

(昭和二十九年卒)

平成十七年度第四回佐倉葛城会総会は、今年も大野敬三校長先生のご臨席を賜り平成十七年三月二十七日(日)佐倉ユーカリ「ウィッシュトンホテル」にて三十三名の会員の皆様の出席のもと盛大に開催する事が出来ました。

尚昨年に続き今年も佐倉国際花火大会に参加を予定しておりましたが当局の都合で中止。そこで今年は佐倉城跡公園にて紅葉狩りを企画致しました。

地球温暖化の影響か、年もおしせまった十一月二十七日(日)ようやく里の秋も色に染まり、二十一名の会員が参加、句会なども盛り込みちよっと早めの忘年会も兼ね楽しく時を過ごしました。

来年もまた佐倉の地域性を取り入れた佐倉葛城会ならではの企画を考え活発に活動を行っていく所存です。

☆長生茂原葛城会

常泉吉朗

(昭和二十六年卒)

十七年十月一日当地区支部総会を開きました。母校より大野校長先生に御出席頂き、学校の近況将来の展望等につきお話しを伺いました。今回の

支部総会は第五〇会という節目の会でありました。半世紀にわたり会を運営してこられた諸先輩、会員の努力に改めて敬意を表し、歴代会長三名の方々にやさやかな感謝状を贈呈致しました。当日の出席者十三名、卒業年昭和十一年から昭和四十年まででした。少々少人数でしたが、全員元気で語り合い大いに盛上



がりました。今後もより多くの会員の方々に参加して頂くよう工夫してゆきたいと思っております。

☆東京葛城会

東京葛城会事務局長

箕輪正美

(昭和四十四年卒)

第四六回総会・懇談会は、平成一七年一〇月一九日(水)の夕刻にここ二〇年来の会場となっている上野精養軒で一〇余名の同窓生が集い、霜禮次郎同窓会長、大野敬三学校長、依田寛市先生をお迎えして開催されました。

東京葛城会は戦前からの集ま

りですが、戦後は昭和三五年に再興されて現在に至っています。当会では第三〇回の開催年度に昭和三〇年卒業の同窓が総会・懇親会の企画と当日の進行の幹事役をすることになり、以降毎年幹事年度を一年ずつ若い方に移行してきました。そして、今年(昭和四十六年卒)の小島晶さ



んの司会で当日の総会・懇親会が進められました。

今回は職場の中心となつて働く中堅および若手の同窓が参加しやすいようにという配慮から、例年より開催時間を三〇分遅くして六時三〇分とし、開会前の三〇分間を早く会場に來られた人がビールを飲みながら歓談が出来るようにと「名刺交換タイム」を設けました。

今年には千葉高のOBが主催するアマチュアのジャズグループに演奏を依頼しましたが、「名刺交換タイム」から始まった演奏が華やかであり、又、適度に落ち着いた雰囲気を持っていたこともあつて、皆さん会話がはずんで楽しかった、いい同窓会だったと大変好評でした。

来年は昭和四七年卒の人達が幹事をする事になります。この年度は大変集まりのよい学年で、多数の人に年度幹事になつて頂き、来年の総会の準備に余念がありません。四七年卒の年度幹事諸君は同学年の同窓だけでも三〇〜五〇名の参加を

確保することです。来年の総会は今年に増して盛会になることが期待できそうです。

葛城だより

◎平成十七年度受章者

心からお祝い申し上げます。

瑞宝中綬章

細谷憲政 (昭和18年卒)

瑞宝双光章

足木茂和 (昭和20年卒)

旭日小綬章

植草 昭 (昭和20年卒)

瑞宝小綬章

齊藤一成 (昭和25年卒)

旭日小綬章

眞下育男 (昭和25年卒)

藍綬褒章

中村浩紹 (昭和29年卒)

文化功労章

三谷太一郎 (昭和30年卒)

千葉県知事表彰

守 正英 (昭和36年卒)

総務大臣より感謝状

篠崎悦子 (昭和40年卒)

〈敬称略・卒業年順〉

◎逝去者

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

國司宣孝 (昭和18年卒)

平成16年12月5日

加藤太一 (昭和20年卒)

(安房支部役員)

餅崎昭男 (昭和20年卒)

平成16年7月22日

田積 晃 (昭和29年卒)

平成16年9月3日

〈敬称略・卒業年順〉

編集後記

小春日和のある日、千葉寺観音堂まで散歩しました。千葉高から歩いて5分程の所にある、

千葉市内最古の寺院です。閑静な境内には、和銅二年(七〇九年)行基がもたらしたと伝えられる、樹齡千三百年の大銀杏が蒼穹を背に立っていました。その枝振りの壯観に見入っていると、30年前、部活で寺まで走ってきて、この樹を見上げて一息入れた瞬間が脳裏に蘇りました。30年という時の流れも、この樹から見れば一刹那に過ぎないのかもしれない。

同窓会員の皆様、お変わりありませんか。今年度も多くの原稿、そして写真をありがたうございました。一月十四日に同窓会理事会が無事終了し、二月四日の総会に向けて、事務局も準備に追われています。今年度の事務局は、岩澤泉教諭(昭41年卒)を事務局次長として、他9名の本校職員から構成されています。どうぞ本年もよろしくお願ひ申し上げます。

(五木田)

